

子宝祝い金の認定式



各支所で行われた認定書の交付

南丹市発足後初の子宝祝い金支給認定式が各支所で行われました。南丹市では、市内に三年以上居住している市民に、第一子が生まれると五万円、第二子に十万円、第三子以降に三十万円を支給する「子宝祝い金制度」があります。今回は、二月までに生まれた新生児二十五人の保護者から手当の申請があり、子宝祝い金支給認定書と子宝祝い金が各支所長から手渡されました。また、養育費支援として毎月支給される、すこやか手当の認定書が贈られました。

五月十七日、南丹市国際交流会館コスモホールにおいて、南丹船井自衛消防隊連絡協議会の設立十周年記念式典が行われました。同協議会では、地域の事業所、自治体、消防などと連携協力し、初期消火訓練や救急救命講習など地域防災の活動を積極的に進められてきました。

式典では、藤田正義会長が「聴安全で住みよいまちづくり軌に寄与すべく活動を展開していきたい」とあいさつをされ、協議会活動の発展が誓われました。



連携の強化を誓った出席者

安全で住み良い街づくりをめざして

第二大堰橋 橋梁下部工が完成

南丹土木事務所が、南丹市八木町内で進めている第二大堰橋の下部工事が完成しました。第二大堰橋は、国道四十七号バイパス「西田大敷道路」の新設事業として整備されているもので、八木町西田地区と大敷地区を隔てる桂川を横過するため建設されており、完成すると橋長は約一四九メートルとなります。また、京都縦貫自動車道「八木IC」と連絡する路線となることから、歩行者の往来が激しい商店街の交通量を軽減させ、交通安全の向上も図られます。



完成した第二大堰橋の下部工事

五月二十四日、南丹市における行政改革推進プロジェクトの第一回会議が本庁、支所職員二十人が出席し行われました。

開会にあたり佐々木市長が「既成概念にとらわれない柔軟な発想による改革を行いたい」とプロジェクトに対する意気込みを述べました。会議では、合併してからの問題点など多くの意見が交わされました。今後は、七月末を目標に改革案を完成させていき、十二月に公表できるようまとめられる予定です。

南丹市の行政改革を進める



南丹市の行政改革がスタートしました